

千葉県環境審議会鳥獣部会 ニホンジカ小委員会 議事概要

- 1 開催日時 令和4年1月14日（金）
午前10時から午前11時20分
- 2 開催場所 ホテルプラザ菜の花 菜の花
千葉市中央区長洲1-8-1
- 3 出席者
【委員】梶光一委員（委員長）、鈴木牧委員、榎本文夫委員、
飯塚和夫委員、吉野正恭委員、屋代浩委員、中澤京子委員

【 県 】 能條自然保護課長、君塚副課長（鳥獣対策）、他自然保護課職員
- 4 議 案
議案第1号
第5次千葉県第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ）の策定について
- 5 審議結果
上記4の議案について審議がなされ、原案に修正を加えたうえで別添修正議案により
議決された。
- 6 その他
第1号議案については、令和4年3月11日開催予定の千葉県環境審議会鳥獣部会での
審議が必要であるため審議結果を報告する

7 主な質疑

(委員発言…委、県発言…県と記載)

委 和暦と西暦の標記の仕方が統一されていないため、統一した方が良い。

県 修正する。

委 二ホンジカよりもイノシシの被害が多い。イノシシの被害対策と一体的に進めてほしい。令和2年度の狩猟免許取得者数が大きく減少している。若年層の免許取得者が増えていくことが望ましい。若年層の免許取得者が増えるように対応をすることが、捕獲の推進につながるのではないかと。是非お願いしたい。

県 新型コロナの状況を踏まえ、狩猟免許試験の受験者数を絞っていたが、今後、状況を見て、対応していきたい。新人ハンター入門セミナーを開催し、若い人にも興味を持ってもらう機会をつくっている。引き続き、若手も含めた狩猟者の確保に努めたい。

委 個体数の抑制には、メスを捕獲していくことが重要。雌雄別の捕獲データは市町村から県に報告はあがっているか。メスの捕獲数についても記載があるとよい。

県 市町村から県に雌雄別の捕獲データを報告してもらっているため、データを集計して、掲載を検討する。

委 捕獲頭数を約1500頭上乗せする目標内容となっているが、目標達成のために具体的な方策は。県捕獲をどのように戦略的に行うのか。

県 捕獲従事者が限られており、イノシシ等に他の被害が大きい獣種に対応する必要もあるので、効率的、効果的な捕獲方法を検討する必要がある。現在、実証試験も行っているが、ICT機器の利用や被害対策の取組が成功している集落の事例を収集し普及していくこと等により捕獲数の積み上げを図っていく。

委 捕獲数の増加は目的ではなく手段である。捕獲数を達成できなくとも、被害を抑えることが重要。被害対策が本当に効果的になされているのか、よく現場の状況を確認する必要がある。捕獲数の目標達成は難しいだろうが、生息密度を減らすだけでなく、現場での被害対策の取組みを丁寧に拾い上げながら、柵の設置などの対策も含めて地域住民にとって許容範囲になる程度に被害を抑えることが重要。

委 第4次計画で拡大防止地域の記載があったが、表8では記載がない。拡大防止地域の取り扱いはどうするのか。

県 第4次計画でのゾーニング管理の考え方であったが、ニホンジカの生息域では全体的に生息密度が高い状況にあるため、地域区分ごとの対策の違いがなく、分布拡大地域の考え方が分かりにくかった。そのため、第5次計画では長期的な目標として「コアエリア」、「共生エリア」での適正な生息管理を行っていくこととして整理した。図13のコアエリア、共生エリアで生息管理をしていき、最終的には、シカ分布域の白地のエリアでは生息数をゼロにしていくことを目指す。

委 いまの書き方では、コアエリアと共生エリア以外の地域の対応を放棄しているように見える。拡大防止地域の生息数を0にするのは現実的には不可能と思われるため、低密度にするなどにしてはどうか。

県 コアエリアと共生エリア以外のニホンジカの生息域の対応について整理のうえ、記載することを検討する。

委 7ページのアンケート調査についての説明で、被害が「深刻」「大きい」の回答割合に前回調査から大きな変化がなかったと記されているが、8ページの図5では、「深刻」の区分が増えているように見えるがどうか。

県 「深刻」と「大きい」をひとくくりにして捉えて表現した。

委 農業者の実感と大きな差がなければ問題ないが、気になり質問した。

委 植生調査結果について、どの地域で植生が減少しているか、していないか整理することが重要であるため、それが分かるように記載すると良いのではないか。希少種についても調査をしていれば、その整理もあれば良いのではないか。

県 調査地点毎に出現種について記録しているため、希少種があったかどうかは整理することができる。どの地域で植生が劣化しているかについても掲載を検討する。

委 植生調査について、下層植物の状況は森林の管理状況も影響する。モニタリングの際に、森林の管理状況、間伐状況、林床の明るさ等の調査も必要でないか。

県 今回は間伐状況の調査等はしていなかったため、次回調査以降は調査項目に加えることを検討する。

委 県事業では、生息域の分布外縁部での捕獲を実施しているが、シカの生息数は少なく、外縁部だけの捕獲では成果につながりにくい。外縁部だけの捕獲ではなく、生息密度が高ければ清澄山に近い部分でも捕獲できる、というように変更したのであれば、コアエリアと共生エリアの整理は評価したい。第4次計画では外縁部での対策しかしないように見えた。コアエリアに関係なく、生息数の多い個体の供給源で捕獲をしてほしい。今年度の指定管理事業における東大演習林での捕獲では、下見段階ではシカの痕跡は少なかったが、結果は目標頭数を達成した。それを踏まえると、他の密度の高そうな地域には、相当数のシカがいると推察される。コアエリア、共生エリアの名前に捉われずに、生息数が多い場所で捕獲が進められるようにしてほしい。ICTについて千葉の山の地形は入り組んでいるため、捕獲従事者がわなをかけたいところに電波がない状況もある。今後推進していくなら、精度をあげてほしい。県内の山野には数万台のわなが設置されていると予想されるため、相当数のわなに使えるくらいに価格帯を下げられるように開発してほしい。シカが媒介するヤマビルに、地元の人が苦慮している。ヤマビルの対策についても具体的な方法で進めてほしい。

委 ヤマビルの生活被害をどうするかは今後の課題。計画に書き込むのは難しいので、意見があったことを記録しておいてほしい。

委 県、市町村との役割について明確にしてもらおうと、対策が進めやすい。

狩猟免許の受験希望者が多いため、webでの開催等も含めて検討してほしい。

委 イノシシの被害が多いため、一体的に対応できるように計画を策定してほしい。

猟友会に頼っているが、高齢化が進んでいるため、その対策も必要になると考えている。

修正箇所については、別紙のとおり。

別紙

第5次千葉県第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ）の主な修正箇所

○和暦・西暦の標記を統一

○P7 農業被害のアンケート調査の結果について、文章を修正

○捕獲頭数について、オス・メスの内訳について追記

→P9に「R2年度の捕獲頭数の内訳（メス51%、オス49%）」を追記

→P11に図8として内訳グラフを追加

○第4次計画での拡大防止地域の取り扱いについて追記

→P18本文中に「コアエリア」「共生エリア」以外のニホンジカの生息域については「生息数の低減と分布域の縮小を図り、生息域の適正規模への抑制に向け管理を進めていく」旨を加筆